

## プリントディレクター講座

7月から今年度のプリントディレクター講座が始まりました。受講者は本社から4名、島田PCから3名で、例年同様、プリプレスから印刷、後加工まで印刷に関わる基本を学ぶカリキュラムとなっています。

今年度からは、初めてオンラインでの講義を取り入れています。これはコロナ禍以降、実技や一定以上の座学を対面で行えば、オンラインでの講義が認定職業訓練の規定上、可能になったためです。受講のための移動時間の軽減や、島田PCからも同時に受講できるなど、オンラインならではの利点があります。ただ、講師にとっては対面と勝手が違いやりにくさを感じることもあるようです。ライブ配信とはいえ、受講生の反応から理解度を把握するのが難しく、また製品やサンプル等を実際に手に取って説明し、理解を深めていくことなどに課題があるようです。

8月も講義は続きます。より効率よく、効果的な講座となるよう、受講生と共に講師陣も一体となって取り組んでいます。



7月27日、印刷教程の様子

## 新紙幣の発行

7月3日、お札の絵柄、デザインが20年ぶりに変わりました。お札はパスポートや官報、郵便切手などとともに、原図・原版作製から製紙、インキ製造、印刷、検査・仕上げまで一貫したプロセスを通して国立印刷局で製造されています。原図は、工芸官という専門職員による手彫りで彫刻した画線と、デジタル技術による背景の模様が組み合わされて作られています。

新札では、ユニバーサルデザインへの対応や、偽造を防止するための技術が進化しています。

### ●代表的な技術



- A すき入れ・高精細すき入れ**～券種毎に異なる形状・位置に配置され、新たに緻密な連続模様が導入されています。
- B 3Dホログラム**～左右に傾けると肖像が三次元に見えて回転し、肖像以外の図柄も見れる角度によって変化します。お札への採用は世界初です。
- C 潜像模様**～傾けることで、表面には額面数字が、裏面にはNIPPONの文字が浮かび上がります。
- D 識別マーク**～指感性に優れた11本の斜線が券種毎に異なる位置に配置され、識別しやすくなっています。

国立印刷局の工場見学では、映像やパネル展示、体験装置を通じて、お札について学ぶことができます。訪れてみるのはいかがでしょうか。

国立印刷局：<https://www.npb.go.jp>

本社 環境委員会

